



びろうじま

おめでとう!

門川町善行児童表彰

宮日文芸 学園俳壇

一般部門

6年 高島 瑞希 さん
6年 山口 朋華 さん

2月24日(土)掲載

「さむすぎて カチコチかたい かぞくたち」

6年 岩城 賢成 さん

ラジオ体操部門

3年 谷口 武 さん
5年 谷口 楓 さん



もうすぐ6年生は卒業式を迎えます。この6年間、小学校での勉強やいろいろな行事などを通して成長してきました。いろいろな経験を通して自分自身を振り返り、そしてさらに一段と自分を高めていこうとする6年生の姿がよく表された作文を紹介します。

救ってくれた祖母の言葉

六年二組 高島 瑞希

私が二学期を終えて一番心に残ったのは、陸上記録会です。私は走り幅跳びを行いました。体育の時間はもちろん、時々昼休みに練習しました。

私は練習中に自分でもビックリするくらい良い記録が出ていました。そして、いよいよ陸上記録会当日、

天気が心配でしたが、何とか朝は晴れていたのです、予定通り行うことになりました。しかし、とつぜん雨が

パラつき始めました。そして、そのまま太陽が顔を出すことなく競技を行うことになりました。とても寒い中、競技を行うことになったので、

体はカチコチ、カチコチのまま順番が来ました。次々と一位が出る中、私はとてもきんちようしてしま

た。そして二回跳び終わりました。私は練習よりもはるかに悪い記録でした。とてもくやしかったです。

その時、私は思いました。もし雨が降らなかつたら。もしも中止にな

って学校できんちようせずによれば、くやしくて、くやしくて、泣きそ

うになりました。だつて学校で出していた自己ベスト

が出れば一位だったのですから。

この思いをなくそうと、私は家族にこの事を何度も言いました。

すると祖母に、「本当に良い記録が出る人は、きんちようしても寒くても、実力は出せると。あんたは、きんちようしてたり寒かつたつてことを理由にして現実からにげてるだけよ。もう過ぎたことは、いくら理由をつけても変えることはできん」とよ。」

私はいきなり泣き止んでしまいました。私は、現実とすっかり向き合つて、入賞した人に心からおめでとうを言おう。そう思いました。

それから私は、「たれば」を出るだけなくして、人の事でも自分のように喜べるようになりました。祖母のあの言葉がなかつたら、私の心は悪の言葉であふれていると思います。にくい。この言葉でうめつくされていと思います。祖母の言葉が私を救ってくれました。

今、私は誰かがにくいなどの気持ちは一切ありません。毎日が笑顔です。

これが私の二学期に一番がんばつたこと、救われたこと、そして心に残ったことです。